

地域に於ける産業遺産の保存活用

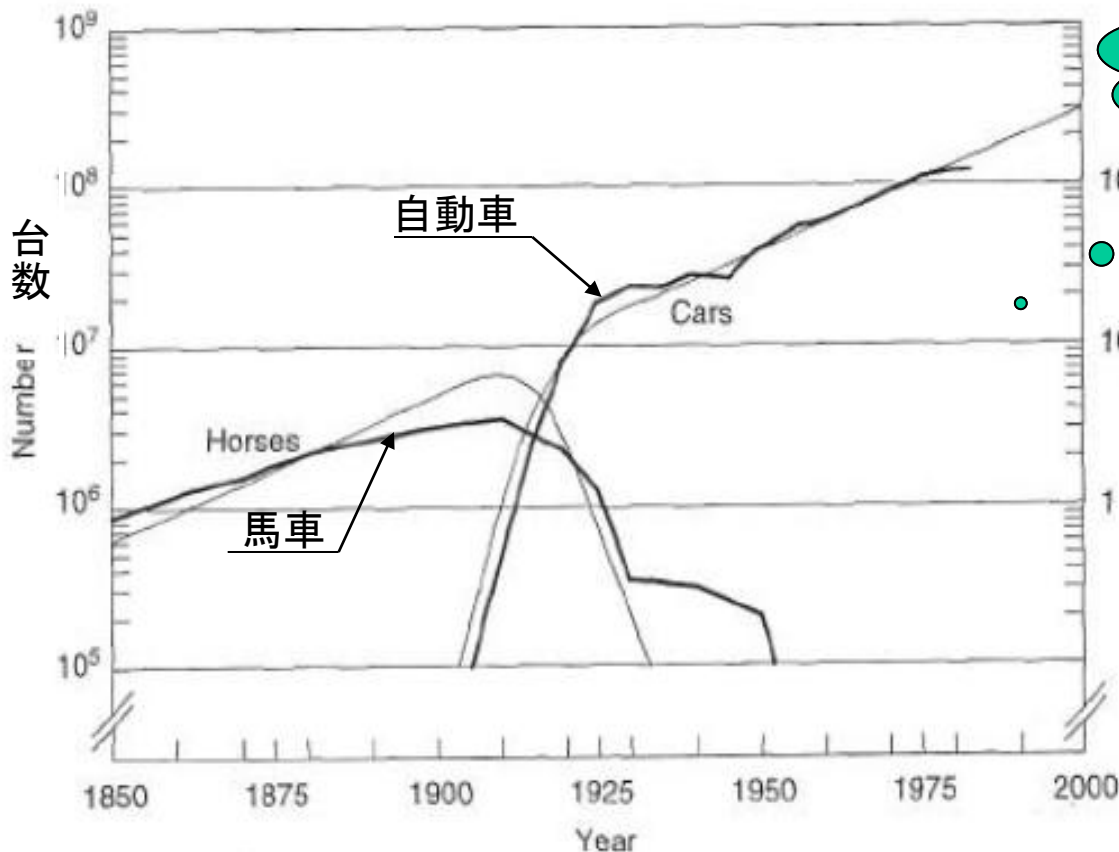
(英国の鉄道博物館を例として)



佐藤建吉（千葉大学）

自動車も、かつては、オルタナティブであった

- 下の図は、アメリカにおける馬車から自動車への転換を示しています。
- でした。つまり、自動車は馬車に対してオルタナティブ
- いま、ガソリン自動車から電気自動車、燃料電池自動車への転換がなされています…。



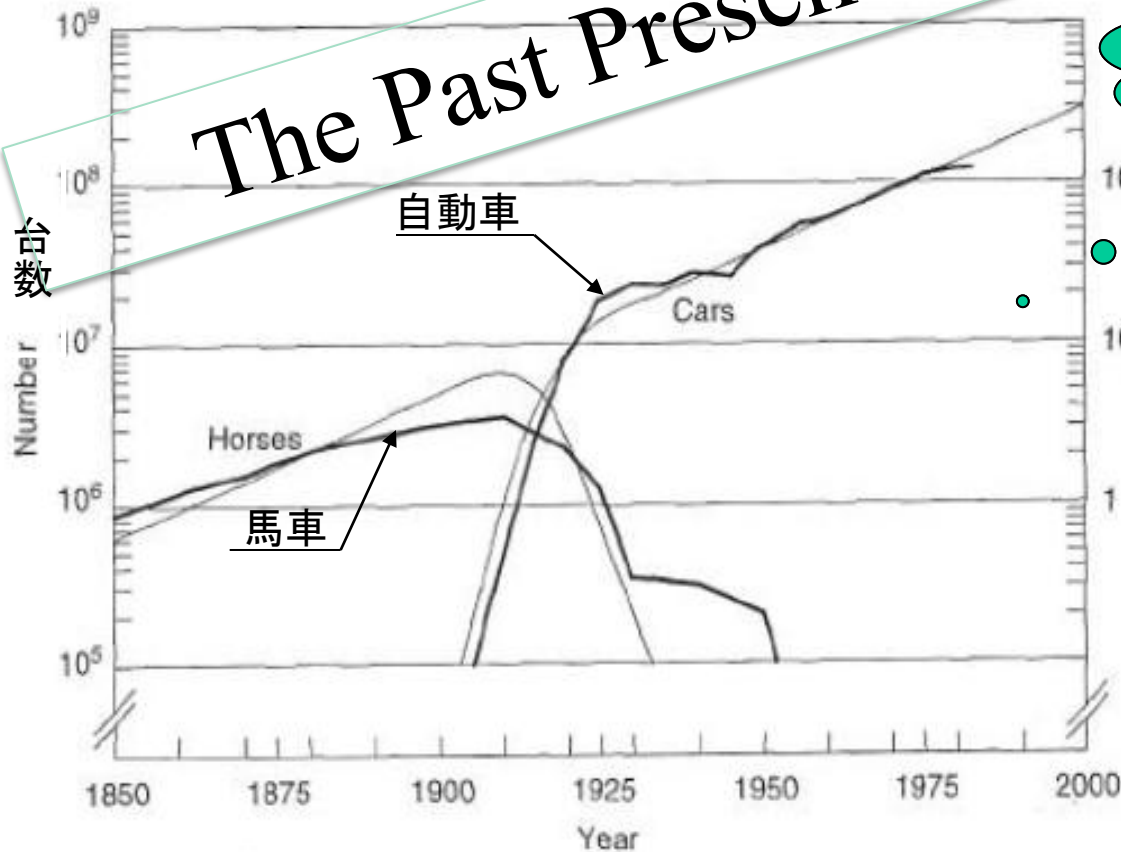
このままでいいのか、
いけないのか、それが問題だ。

1910～1925頃の
自動車の急速な
伸びは、フォード
-Tタイプの登場
による。

出典：日本機械学会誌

自動車も、かつては、オルタナティブであった

- 下の図は、アメリカにおける馬車から自動車への転換を示しています。
- でした。つまり、自動車は馬車に対してオルタナティブ
- いま、ガソリン自動車から電気自動車、燃料電池自動車への転換がなされています…。



このままでいいのか、
いけないのか、それ
が問題だ。

1910～1925頃の
自動車の急速な
伸びは、フォード
-Tタイプの登場
による。

出典：日本機械学会誌



内閣府 地域社会雇用創造事業
社会的企業人材創出・インターンシップ事業
「地域カーボン・カウンセラー」養成講座

再生可能エネルギー(風力)

水力
太陽光
バイオマス
風力

一般
社団
法人

洗楓座

ヒューマンパワー

地熱

一般社団法人
カーボンマネジメント・アカデミー

佐藤建吉(千葉大学&洗楓座)

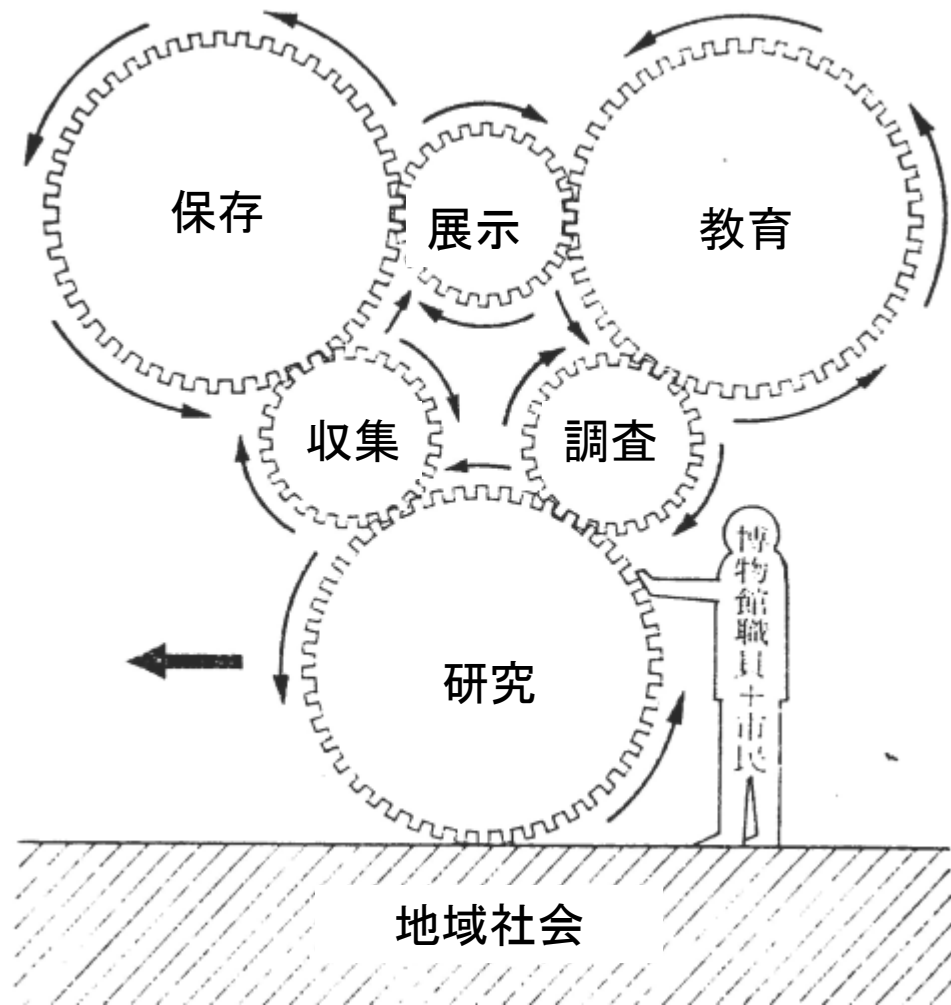
再生可能エネルギー利用を進める人
の集まり

博物館は社会の記憶装置の一つである

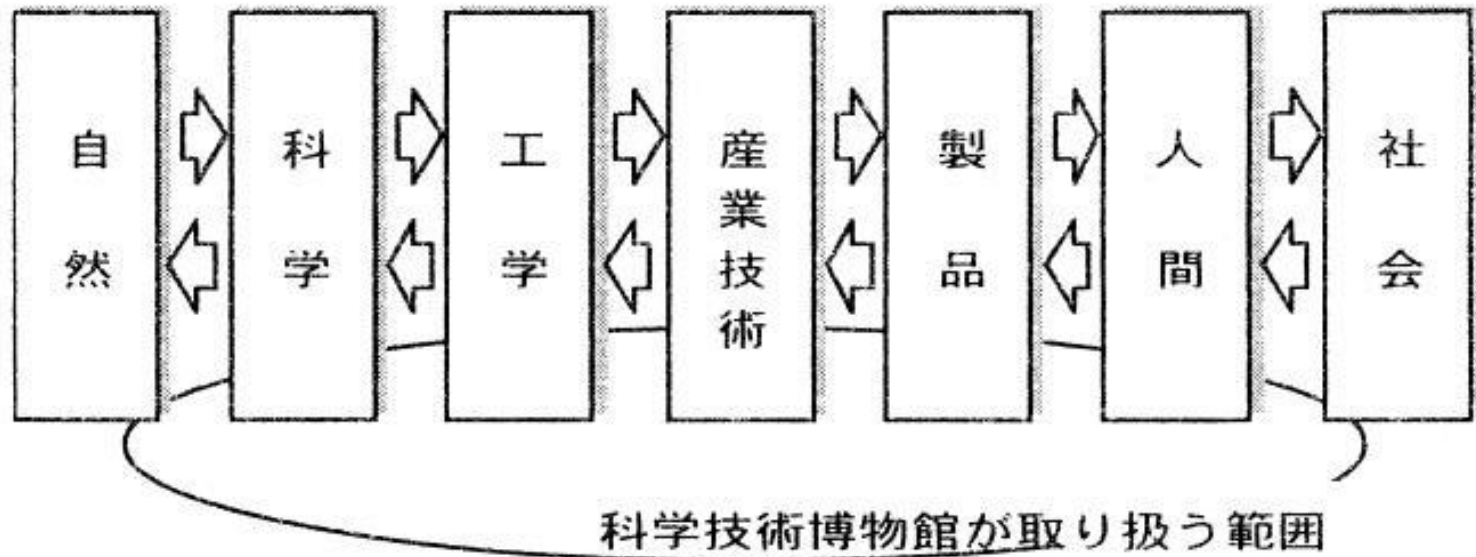


菅建彦：千葉大学講義録『科学技術と博物館の役割』
(2005年7月)

博物館の機能



科学博物館の守備範囲



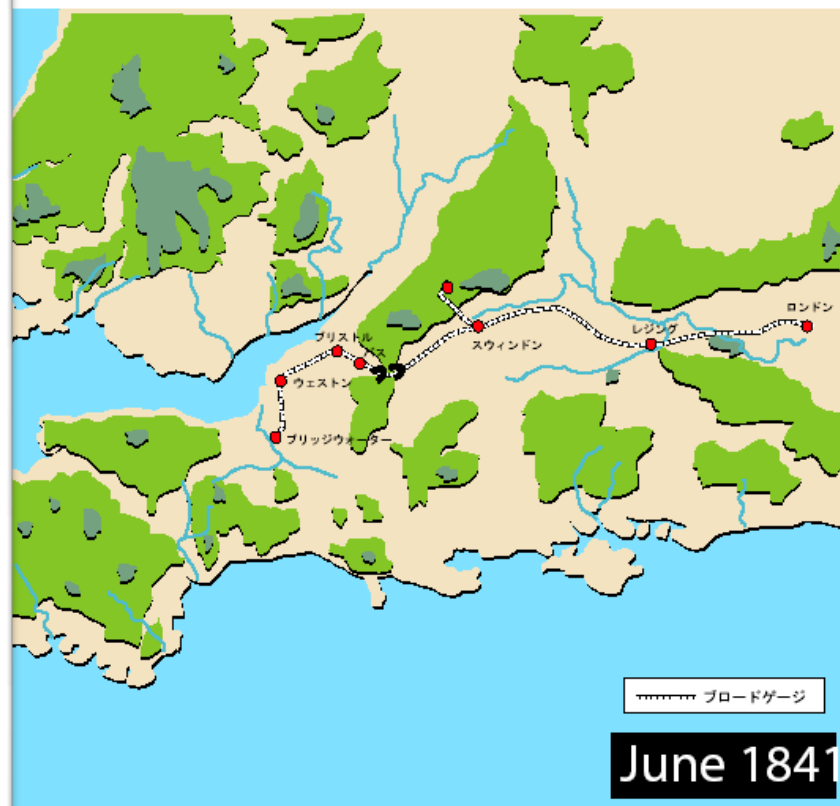
鉄道史博物館 “STEAM”



ブルネルのGWRと
スインドンの鉄道工場

鉄道史博物館 “STEAM”

ブルネルのGWRと
スインドンの鉄道工場
—ロンドンから77マイル



鉄道史博物館 “STEAM”

Isambard Kingdom Brunel

(IKB, 1806～1859)

GWR (Great Western Railway) の
鉄道エンジニア、GWRの総指揮者であった

Swindon・・・GWRの鉄道工場

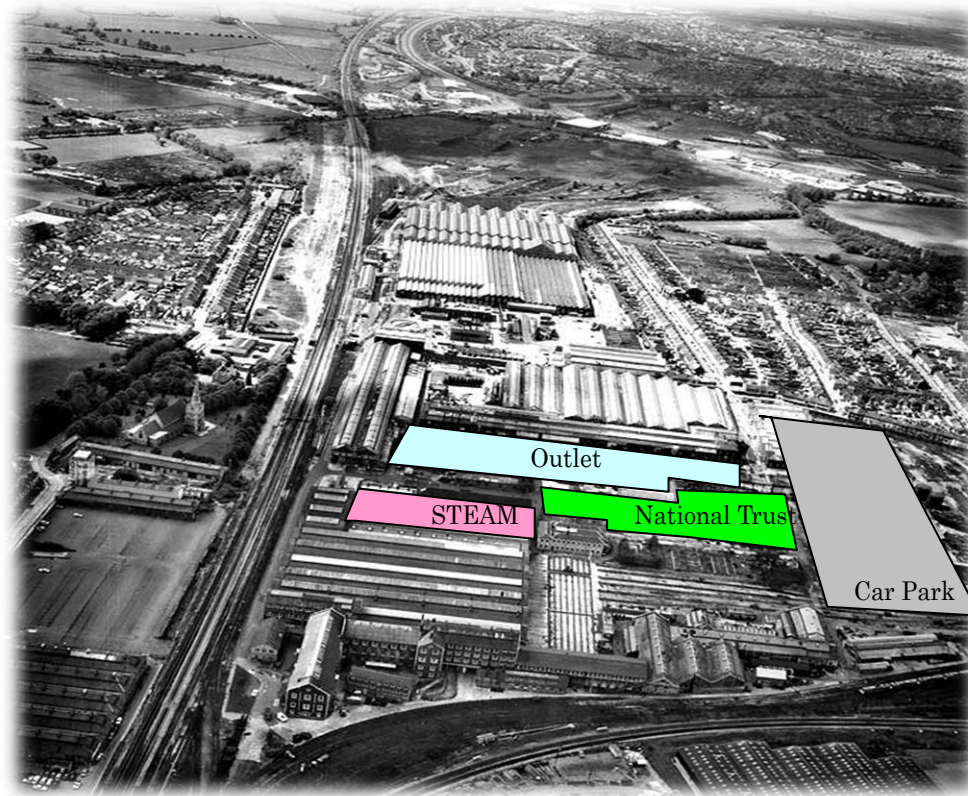
スwindonの人口は、1843年 2,500人

1900年 21,000

(12,000人は、GWRの労働者)

スインダンの鉄道工場

開設1843年 閉鎖1986年
GWRの機関車、貨車などが製造



鉄道史博物館 “STEAM” の現状と周辺環境

—2005年、National Trustも隣接オープン

スインドン市とGWRは、1962年に
GWR鉄道工場の偉業を伝えるため

鉄道博物館を開設した



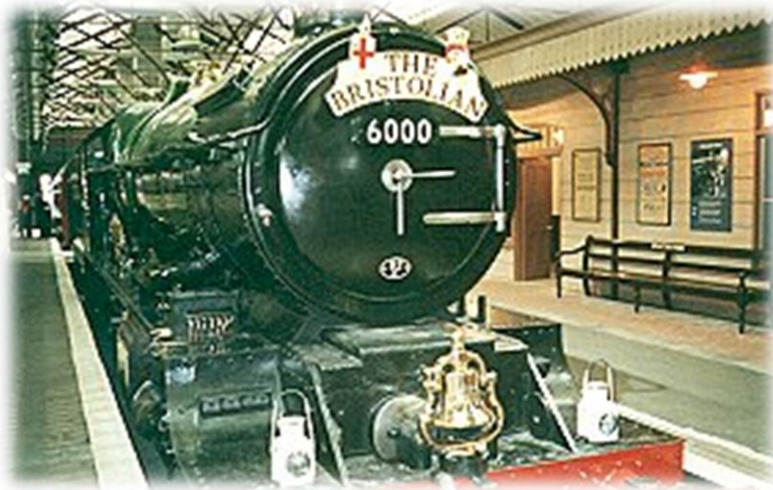
鉄道史博物館 “STEAM” の現状と周辺環境

しかし、スインドンの繁栄も、蒸気鉄道からディーゼルや電気鉄道への転換で終わりを告げ、1986年に鉄道工場は閉鎖され、町は衰退した。

⇒ 町の振興のため、アウトレットと協働して、2000年6月にSTEAM—Museum of the Great Western RailwayというGWRの産業史博物館をリニユアルオープンさせた。

⇒ 本報告では、STEAMを「鉄道史博物館」として位置づけ、議論することにする。

鉄道史博物館“STEAM”の現状と周辺環境



鉄道史博物館 “STEAM” の現状と周辺環境



STEAMでは、そこに働いていた男性や女性の労働状況が実物展示

STEAM —Museum of the Great Western Railway

- STEAMの面積は、6,500m²（2000坪）
- 1843年の創業時の鉄道工場はGrade II
- 運営は、4組織の支援で維持。

Heritage Lottery Fund （文化遺産宝くじ基金）

Swindon Borough Council （Swindon市）

Carillion Development Management

（プロジェクト開発企業）

McArthurGlen （隣地アウトレット経営企業）

STEAM —Museum of the Great Western Railway

McArthurGlen (隣地アウトレット経営企業)



STEAM —Museum of the Great Western Railway

McArthurGlen (隣地アウトレット経営企業)



STEAM —Museum of the Great Western Railway

McArthurGlen (隣地アウトレット経営企業)



鉄道史博物館 STEAM にみる市民教育・実物展示

内発的資源としての鉄道史博物館 STEAM — 市民ボランティアによる友の会の活動 —

蒸気鉄道は、祖先から3代に亘った生命線であり、蒸気の時代にこの街が輝かしい役割を果たした象徴でもあった。
スインダンの町の歴史はGWRとその鉄道工場にある。

STEAMでは、そこに働いていた男性や女性の労働状況を実物

展示、収蔵品の補修や清掃、収納

市民ボランティアが協力

STEAMの鉄道博物館の友の会

年次総会で選ばれた正式メンバーによって

登録資金援助団体No801555

援助組織No2302683が登録されている



これからの産業史博物館のありかた

—市民の視点にたち市民とともにある博物館—

日本博物館協会報告書「博物館の望ましい姿」

- ① 社会的な使命を明確に示し、人々に開かれた
運営を行う (マネージメント)
- ② 社会から託された資料を探求し、次世代に伝
える博物館 (コレクション)
- ③ 知的な刺激や楽しみを人びとと分かちあい、
新しい価値を創造する博物館
(コミュニケーション)

博物館の貢献

- このような観点で、
STEAMのような産業史博物館は、
社会教育の側面から、
市民に鉄道の文化を発信し、また
国際貢献することが
必要である。

「博物館マネジメント」 という取り組みが重要になる

「国立博物館」の「独立行政法人国立博物館」化

- ⇒ 今後はより財政的な自立のために、市民とのネットワーク、協力関係を作る必要がある。
- ⇒ それは、博物館参加による町づくりであると同時に、市民の視点からの博物館づくりでもある。
- ⇒ 経済的な低迷による入場者数の減少をよぎなくされ、経営困難に陥っている博物館も少なくない。

博物館の運営、経営を真剣に考える必要がある。

持続可能な博物館のために

- 博物館の目的である収蔵、展示、調査研究という活動を実践するためには、経済的・資金的な裏づけが必要である。
- ITが進歩して、人件費や管理費の節約のため、バーチャル・リアリティによる博物館展示が主流となりつつあるが、地域の歴史と住民・市民の関わりが深く結びついた企画と展示が望まれる。
- それには、地域の内発的・人的資源としての誇りを持つボランティア参加が可能な管理・運営が必要である。
- 例えば、“五感の教育”を大切にした展示や、サイエンス・ボランティアが専門的に夢やロマンを伝える機会を作り出す“場の支援”が重要である。

展示がいのち

- 労働者の過酷な労働、危険な作業にもかかわらず、身体を張った
“Swindonians”（スインドンの鉄道マン）
たちの心意気を伝える映像や、実物による展示が印象深い。
- ミュージアムは、
＜公衆への奉仕＞のために開かれる
という＜展示デザイン＞

エコミュージアム



エコは、
オイコス

<住民が支える文化・経済活動>

- ①地域住民の記憶の収集
- ②地域の姿を検証，生活環境を創造
- ③自然との調和がとれた社会生活のあり方を探求
- ④何を保護し，どのように活用していくか

<身近な視点での地域環境の調査研究，情報収集>

- ⑤新たな視点で意味づけ
- ⑥住民の協力を得て幅広い情報収集
- ⑦住民自らが“誇り”を持って，次世代へ継承
- ⑧まちのシンクタンクづくり

エコミュージアム／まとめ

- 「地域、及び環境における人間の博物館」
 - 「ある一定の地域の人々が自らの地域社会を探求し未来を創造するための総合的な博物館」
 - ⇒ 産業遺産博物館にも共通することであり、
 - 「地域に暮らす人々の心の回復、地域資源の見直し、新しい産業の創造、郷土愛を育む」
- ことこそが、
普遍的な博物館、エコミュージアムとしてのそれを受け入れる状況づくりといえる。
- 地域の産業遺産をこうして保存し活用し、次の世代に伝え、遺すことは、それぞれの地域が誇りを持った地域活性化と持続可能な未来づくりに貢献できるだろう。

エピローグ

— 次の世代に伝える記憶装置としての
博物館のために —

- スインドンの鉄道史博物館STEAMは、2000年の開館以来4年を経過し、当初は多くの話題を集め入館者も37万人を越えていたが、入館者も減少し、博物館館長も交替し、運営面で努力がなされている。
- わが国の博物館においても、経済と産業、科学と技術、そして文化と文明を次の世代に伝える記憶装置としての博物館を存続させるためには、あらゆる人に博物館を解放する有効な方法についての模索をしなければならない（UNESCOの勧告、1960年12月4日）。

エピローグ

— 次の世代に伝える記憶装置としての
博物館のために —

- 国際美術館会議(ICOM)で定義された、
ミュージオロジーは、
《建物》
《コレクション》
《スタッフ》
《公衆》
という4つの要素からなる。
- 公衆こそが博物館と前述した市民をつなぐ要素であり、博物館の運営・活動・展示において、最も重要である。

まとめ

- 「地域、及び環境における人間の博物館」、「ある一定の地域の人々が自らの地域社会を探究し未来を創造するための総合的な博物館」は、産業遺産博物館にも共通すること
- 「地域に暮らす人々の心の回復、地域資源の見直し、新しい産業の創造、郷土愛を育む」ことこそが、普遍的な博物館、エコミュージアムとしてのそれを受け入れる状況づくりといえる
- 地域の産業遺産をこうして保存し活用し、次の世代に伝え、遺すことは、それぞれの地域が誇りを持った地域活性化と持続可能な未来づくりに貢献できるだろう

tetsudou no machi Oomiya nimo
hakubutsukan ga dekimasita



参考文献

- (1) 佐藤建吉, “「技術」についての一考察（技術の定義とその意味）”, 日本機械学会講演論文集, No.08-57 (2008), pp. 51-52.
- (2) 大辞林（三省堂）, <http://www.weblio.jp/content/%E9%81%BA%E7%94%A2>
- (3) 佐藤建吉, “過去から未来を訪ねる技術史という視座の定着のために”, 日本機械学会論文集（C編）, Vo.74, No.746 (2008), pp. 2344-2350.
- (4) 菅建彦, “科学技術と博物館の役割”, 日本技術史教育学会誌, 技術史教育, Vol. 12, No. 2 (2011), pp. 3-7.
- (5) 松浦真理, 佐藤建吉, “ブルネルの鉄道史博物館STEAMと市民教育・実物展示”, 日本技術史教育学会2005年度全国大会講演論文集, (2005), pp.22-24.
- (6) Mark Child: “Swindon—All Illustrated History”, pp. 94-103, Breedon Books, (2002).
- (7) 日本博物館協会: “博物館の望ましい姿—市民とともに創る新時代博物館”, (2003).
- (8) ダニエル・シロディ, アンリ・ブイレ, “美術館とはなにか”, 鹿島出版会, (1993).
- (9) デビッド・ディーン（山路秀俊・山路有喜子訳）, “美術館・博物館の展示—理論から実践まで”, 丸善, (2004).
- (10) 大山由美子, “ECOMUSEUM—理念と事例—”, 洸楓座主催講演会資料 (2008).

参考文献

- 1) 菅建彦：千葉大学講義録『科学技術と博物館の役割』（2005年7月）.
- 2) Mark Child：“Swindon—All Illustrated History”，Breedon Books, 94-103, （2002）
- 3) 小池滋：『鉄道ゲージ戦争』，岩波書店，（1995）
- 4) 日本博物館協会：『博物館の望ましい姿—市民とともに創る新時代博物館』，（2003）
- 5) ダニエル・シロディ、アンリ・ブイレ：『美術館とはなにか』，鹿島出版会，（1993）
- 6) デビッド・ディーン著（山路秀俊・山路有喜子訳）：『美術館・博物館の展示—理論から実践まで』，丸善，（2004）
- 7) 朝日新聞：『国立美術館・博物館の行方』（2005・11・10）
- 8) 福島民報：『芸術と環境の“共存” 倉庫舞台にアピール』（2005・10・25）